

平成 21 年 7 月 11 日
第 15 回日本遺伝子治療学会
会長 金田安史

閉会の辞

第 15 回遺伝子治療学会、3 日間滞りなく無事に終了することができ、誠に嬉しく思っています。献身的に援助いただいたスタッフの方々にも厚く御礼申し上げます。

今回の参加者は一般参加者が 166 名、学生が 135 名、トータルで 301 名でした。今回、初めての試みとして学生が無料になったということもありますが、今までより、多くの参加者を得ることができました。これは我々が当初より目指していた、遺伝子治療をより良くいろんな人達に周知すると同時に、若い人達を教育するという目的を達成することができたと思っています。

それと今回初めて、デリバリー研究会（JSGDD）との同時開催を試み、それも無事に終えることができ、実質的な交流が始まったことを実感しています。ポスターセッションが少ないなどいろいろ改めることはありますが、それはまた次期会長、小澤先生の方でよりよくしていただきたいと思います。

一番嬉しかったことはホールでの口演および一般講演を聴かせていただき明らかにレベルが上がったと思えたことでもあります。また質疑応答もほとんどの演題でハイクオリティで核心を突くような質問があり、またそれらに対して非常に真摯に答えていただいたというふうに思っています。是非、これを続けていただきたい。やはりこの学会は学術大会であるので、ここに来れば遺伝子治療の最新のしかも質の高い成果をきくことができ、それを多くの人に伝えることができ、参加者が更に多くのことを得てそこから次につなげていただける、そのような大会であるべきであり今後もそのような精神を更に求めていきたいと思っております。ご来聴賜りましたこと厚くお礼申し上げます。

どうぞこれからもこの学会の発展により多くの力を貸していただきますようお願い申し上げます。閉会の辞と致します。